

# 注意事項

写真撮影、録音、携帯電話等のご使用はご遠慮いただきますよう  
ようお願い申し上げます。

なお、スマートフォン・タブレットをご使用の際は、音のでない設  
定でご使用いただきますよう、ようお願い申し上げます。



# 第65回 定時株主総会

2023年6月23日

株式会社J-MAX

**報告事項の報告及び決議事項の説明**

**株主様からの質問**

**決議事項の採決**

<b>1.報告事項</b>	■ 監査報告
	■ 事業報告及び計算書類の報告
	● 連結及びセグメント業績
	● 設備投資の状況
	● 連結計算書類
	● 対処すべき課題 中長期5か年計画「J-VISION 30」
<b>2.決議事項</b>	第1号議案 剰余金の処分の件
	第2号議案 取締役9名選任の件
	第3号議案 補欠監査役1名選任の件
	第4号議案 取締役に対する株式報酬制度の一部変更の件
	第5号議案 剰余金処分の件 <株主提案>

ご発言、ご質問は、報告事項、決議事項の説明が終わりました後に一括してお受けいたします。

# 議決権数報告

## 株主数及び議決権数（2023年3月31日現在）

- 議決権を有する株主数 2,204名
- 議決権数 118,548個

# 監査報告

招集ご通知交付書面58～59ページをご覧ください

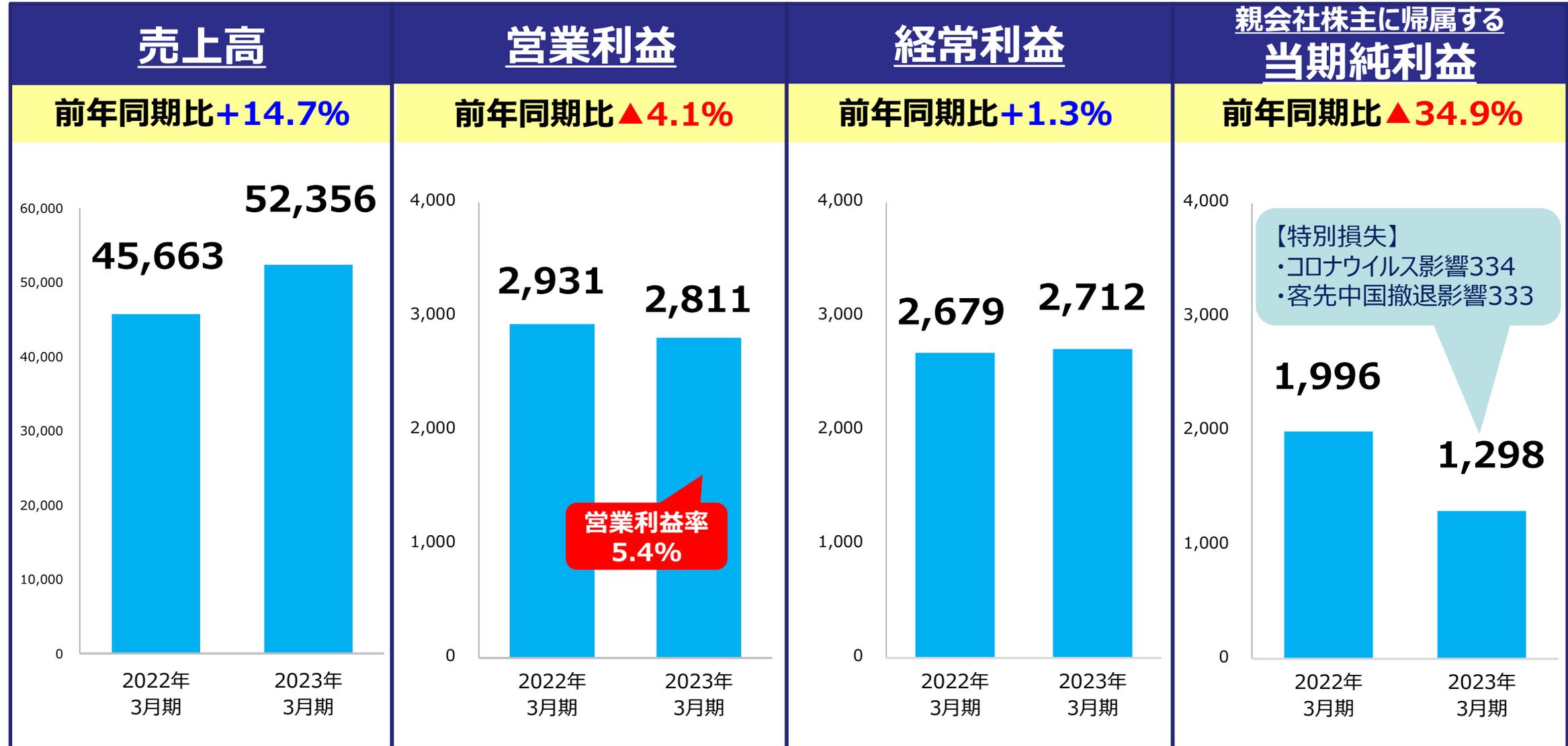
# 報告事項

- 事業報告
- 連結及びセグメント業績
- 連結計算書類

招集ご通知交付書面27～53ページをご覧ください

<b>世界経済</b>	半導体不足 原材料価格 高騰 影響等	ウィズコロナの進展による経済活動の正常化 長引くインフレや金融引き締めにより景気回復は鈍化	<b>回復鈍化</b>
<b>自動車業界</b>	タイ	経済の回復、半導体供給不足の緩和を背景に、 市場は堅調に推移	<b>販売増加</b>
	中国	感染拡大等のマイナス要因が影響するものの、 新エネルギー車市場は堅調さを維持。 但し、日系メーカーの生産は先行き不透明	<b>回復基調</b>
	日本	半導体供給不足の緩和を背景に生産が正常化に 推移	<b>販売増加</b>

(単位：百万円)



# セグメント業績(J-MAX)

10/49

(単位：百万円)

	第64期	第65期	前期比
売上高	14,307	17,437	+21.9% ↗
経常利益	1,357	1,232	▲9.2% ↘

## 65期主な立ち上がり車種



STEP WGN(HONDA)



CROWN(TOYOTA)

## J-MAX 本社・上石津工場（新プレス棟）



- 売上高 主要客先の生産回復及び原材料価格高騰による製品売価の増加等により、増収。
- 経常利益 原材料価格の売価反映の時期ズレ、資源価格高騰による操業費の増加等により、減益。

# セグメント業績(タイ)

11/49

(単位：百万円)

	第64期	第65期	前期比
売上高	5,933	7,276	+22.6% ↗
経常利益	▲40	124	—

65期主な立ち上がり車種

タイ・マルジュン社 ノンケイ工場



CIVIC(HONDA)



HR-V(HONDA)



● 売上高

主要客先の輸出向け自動車部品、汎用エンジン部品等の生産回復に加え、金型設備等の販売増加により、増収。

● 経常利益

生産部品の内製化や生産効率化等の継続的な原価低減の取り組みにより、増益。

# セグメント業績(広州)

12/49

(単位：百万円)

	第64期	第65期	前期比
売上高	17,334	19,652	+13.4% ↗
経常利益	709	1,001	+41.2% ↗

## 65期主な立ち上がり車種



ZR-V(HONDA)



COROLLA(TOYOTA)

広州丸順汽車配件有限公司



● 売上高

主要客先の減産により、現地通貨ベースでは前年同期と同水準となるものの、円安の為替影響により邦貨ベースでは、増収。

● 経常利益

要員適正化等の固定費を中心とした原価低減の取り組みに加え、量産車種終了に伴う金型投資費用の未回収分の回収により、増益。

# セグメント業績(武漢)

13/49

(単位：百万円)

	第64期	第65期	前期比
売上高	11,673	11,697	+0.2% ↗
経常利益	1,036	579	▲44.1% ↘

## 65期主な立ち上がり車種



e : NS1(HONDA)



ELETRE(LOTUS)

武漢丸順汽車配件有限公司



● 売上高

主要客先の減産により、現地通貨ベースでは減少したものの、円安の為替影響により邦貨ベースでは、前年同期と同水準。

● 経常利益

売上減少に伴う固定費負担の増加及び原材料価格の高騰等の影響により、減益。

(単位：百万円)

セグメント	設備投資金額	主な投資内容
J-MAX	2,200	<ul style="list-style-type: none"><li>● 岡山工場関連</li><li>● 本社バリアフリー化</li><li>● 車体骨格部品金型等専用設備</li></ul>
タイ	687	<ul style="list-style-type: none"><li>● 金型トライプレス</li><li>● 車体骨格部品金型等専用設備</li></ul>
広州	1,444	<ul style="list-style-type: none"><li>● 能力拡大、効率化設備</li><li>● 塗装前洗浄ライン能力拡大</li><li>● 車体骨格部品金型等専用設備</li></ul>
武漢	1,865	<ul style="list-style-type: none"><li>● 溶接設備導入</li><li>● 車体骨格部品金型等専用設備</li></ul>
合計	6,197	

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

		第64期 (2022年3月31日)	第65期 (2023年3月31日)	前期比
資 産	流 動 資 産	22,971	22,347	▲624
	固 定 資 産	23,765	26,597	2,832
	資 産 合 計	<b>46,736</b>	<b>48,945</b>	2,208
負 債	流 動 負 債	18,299	20,886	2,586
	固 定 負 債	7,356	5,689	▲1,666
	負 債 合 計	<b>25,655</b>	<b>26,576</b>	920
純 資 産		<b>21,080</b>	<b>22,369</b>	1,288
負 債 及 び 純 資 産 合 計		46,736	48,945	2,208

主な要因	● 資 産	現金及び預金、売掛金が減少 受取手形、有形固定資産が増加
	● 負 債	短期借入金が増加、長期借入金が減少
	● 純 資 産	利益剰余金、為替換算調整勘定が増加 非支配株主持分が減少

# 対処すべき課題

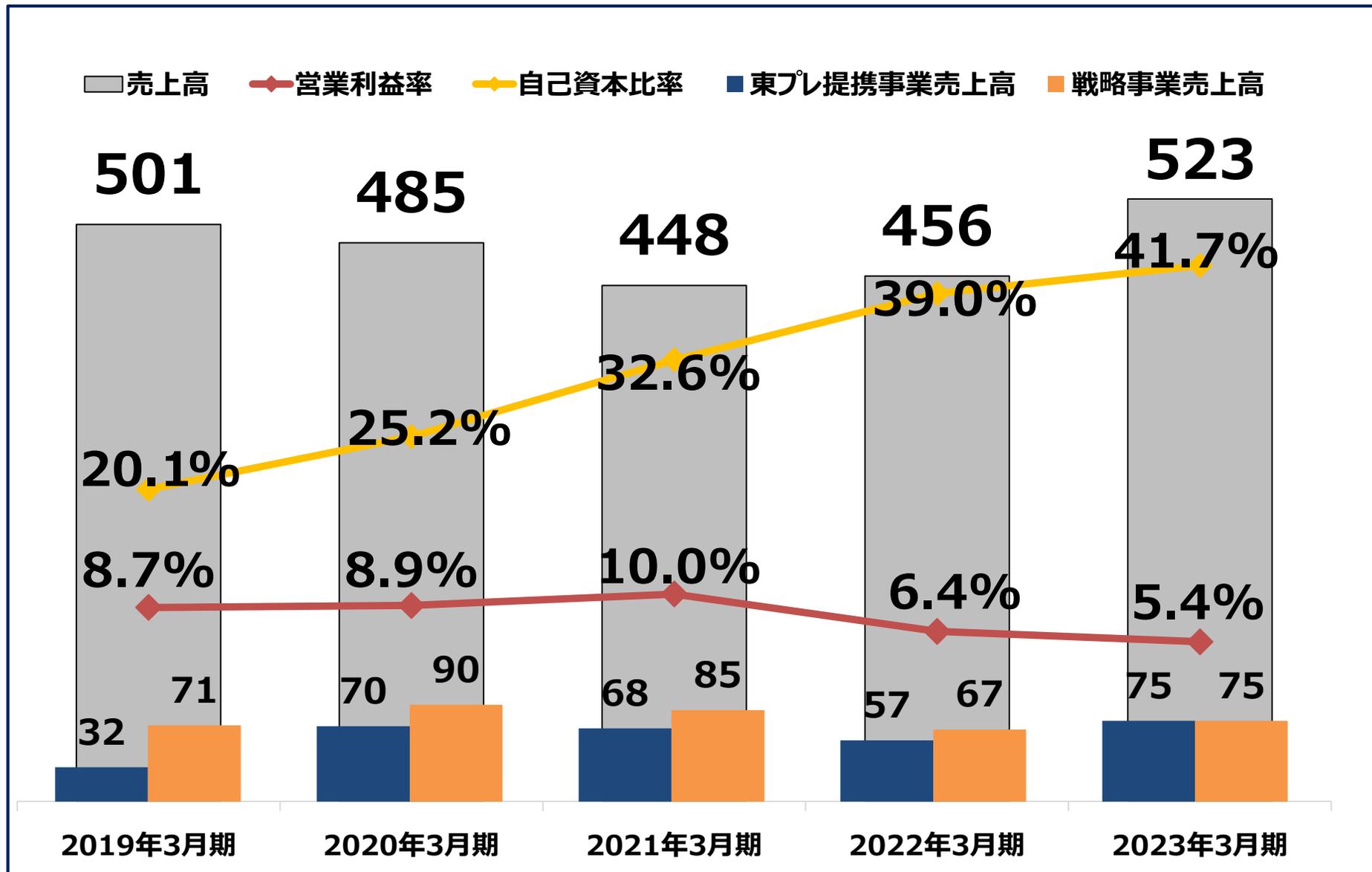
- 中長期5か年計画「J-VISION 30」

## ◆前中長期計画（2019年3月期-2023年3月期）業績振り返り

目標 vs 実績		2023年3月期 目標	2023年3月期 実績	差異	評価
売上高		600億円	523億円	▲76億円	×
(内)	東プレ提携事業売上高	100億円	75億円	▲24億円	×
(内)	戦略事業売上高	150億円	75億円	▲74億円	×
営業利益率 (%)		9以上	5.4	▲3.6	×
自己資本比率 (%)		40以上	41.7	+1.7	○

# 前中長期振り返り

【単位：億円】



《5か年計画目標》

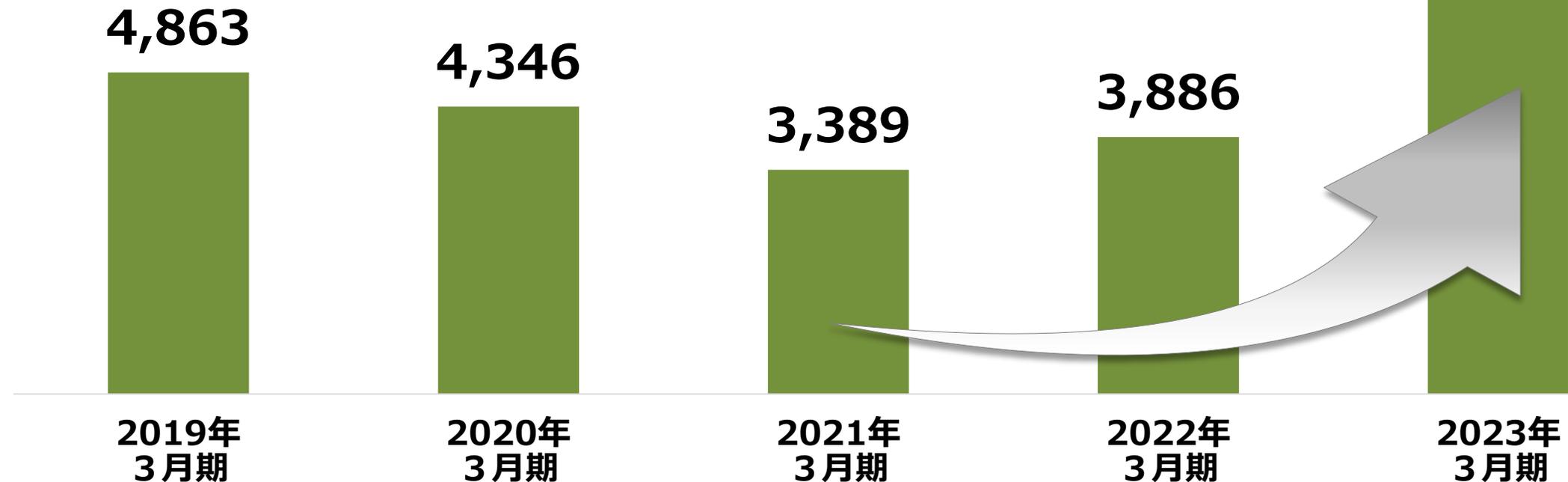
- 売上高 **600億円**
- ◆ 自己資本比率 **40%**
- ◆ 営業利益率 **9%**
- 戦略事業売上高 **150億円**
- 東プレ提携事業売上高 **100億円**

## 設備投資

【単位：百万円】

◆計画 5年間の設備投資 210億円

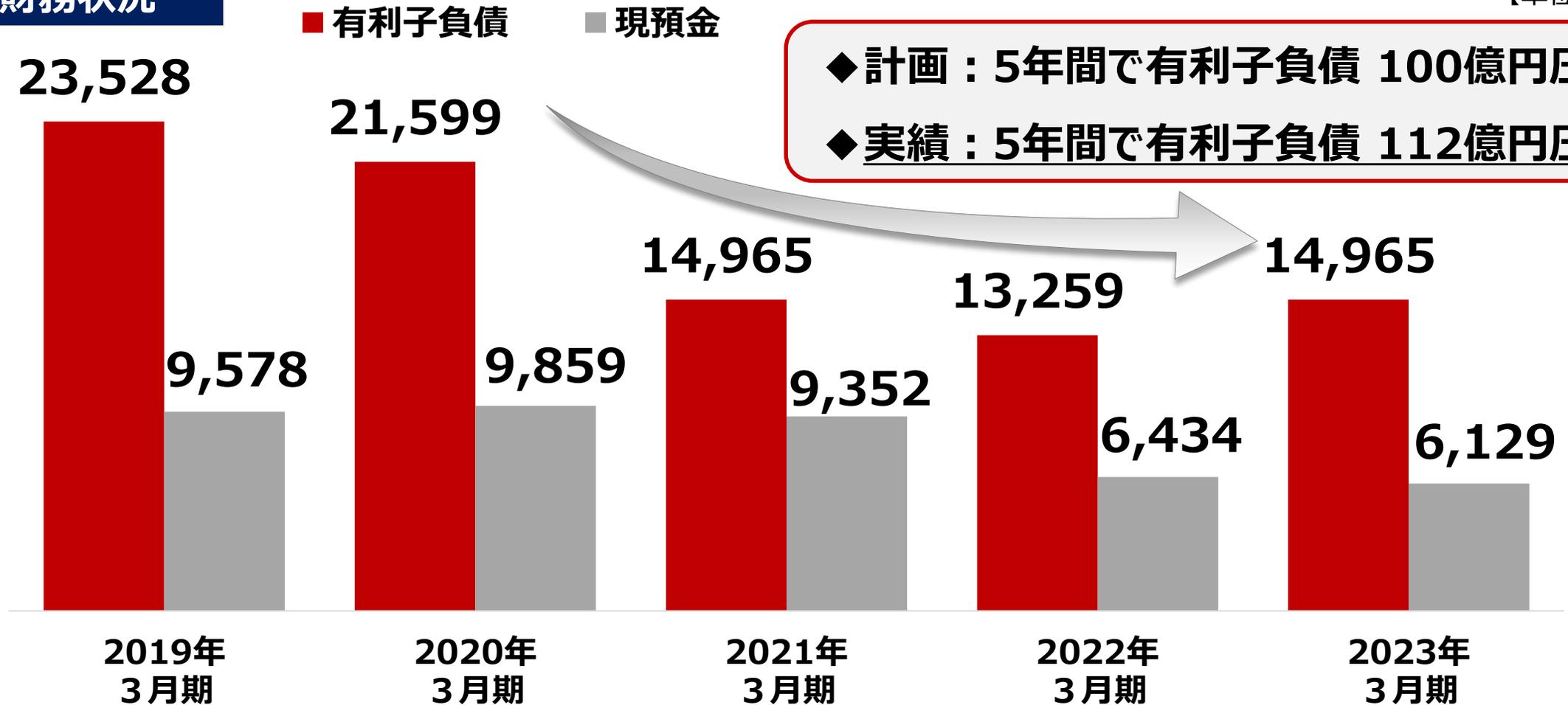
◆実績 5年間の設備投資 226億円



過度な投資は抑制しつつも、岡山工場新設のほかDX推進やサステナビリティ経営等、新中長期を見据えた投資を推進。

## 財務状況

【単位：百万円】



前中長期後半は財務体質強化と成長投資の両立により、保有キャッシュは適正規模へ推移。



## 技術で夢を

### -Make our dreams by Technology-

持続可能な100年企業を目指し、既存事業の技術を磨くと共に、新しい事業への探索と挑戦で企業価値を高め、従業員をはじめとするステークホルダーと夢を共有する。

【中長期方針】 資源配分の最適化により、強固な経営基盤への変革

### 【J-VISION 30】

①2030年に向けて②30年後の100年企業に向けて「**既存事業の強化**」と「**新事業の創出**」を戦略の2本柱とし、次期中期計画を「**J-VISION 30**」とする。

1. ブランド力強化と新規顧客開拓による売上の拡大
2. 新事業確立に向けた新商品の開発
3. デジタルを駆使しプロセスを変革させコア技術を進化
4. 次世代工場の構築と新しいモノづくりへのチャレンジ
5. DXの展開加速で経営構造の変革
6. 持続的な成長に向けた事業ポートフォリオの変革
7. サステナビリティ経営による企業価値の向上

## ①ブランド力強化と新規顧客開拓による売上の拡大



岡山工場イメージ



岡山工場 建設状況（造成中）



福建新会社イメージ

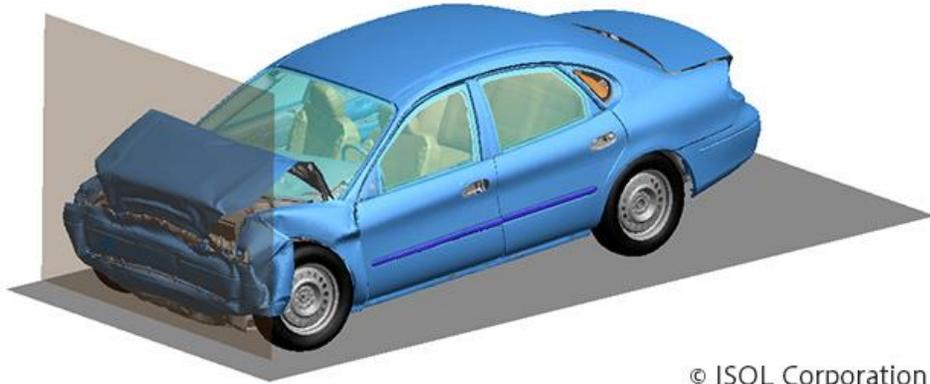
### ➤ 岡山地区売上の拡大

岐阜地区で生産し岡山地区に納品しているボディ部品について、岡山新工場の立ち上げにより、ロケーションを活かしたQCDにおける利益体質向上による競争力の向上を図るとともに、近接地区での受注拡大を図る。

### ➤ 中国電動化事業の拡大

カーボンニュートラルの実現に向け、自動車の電動化が更に加速する中国において、福建省の新会社設立や新プレスライン導入等により生産能力の拡大を図り、CATLビジネスを中心に電動化事業の拡大を目指す。

## ②新事業確立に向けた新商品の開発



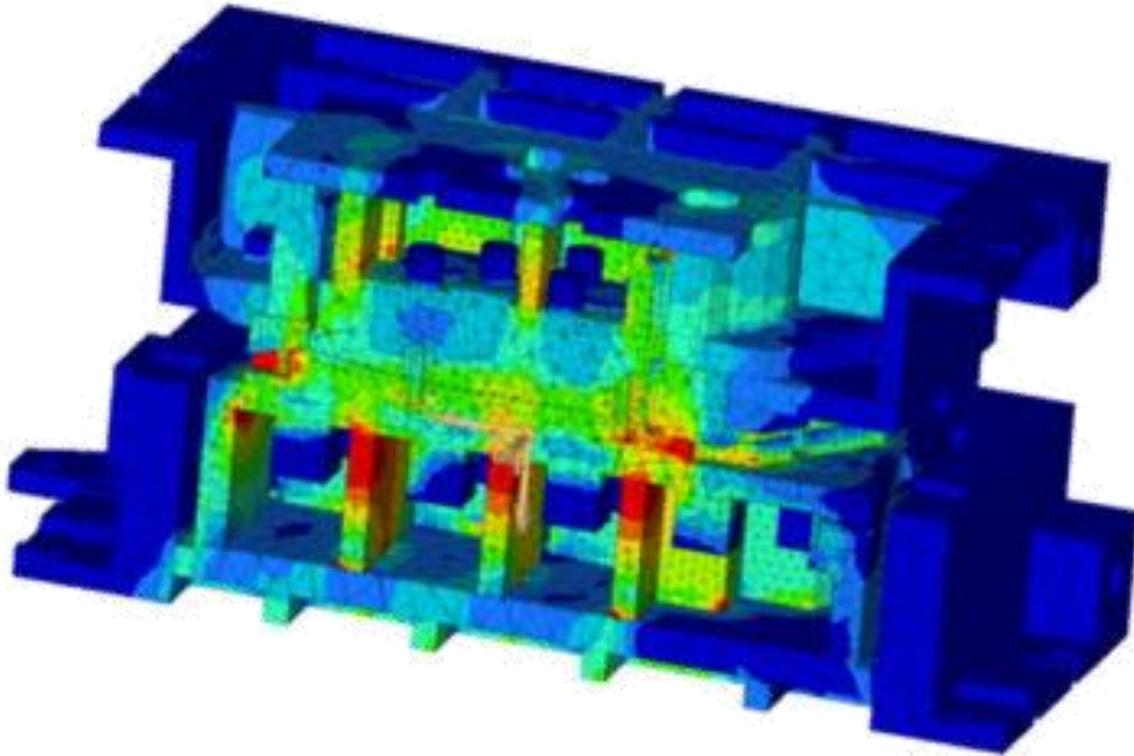
© JSOL Corporation



### ➤ 研究開発の強化

将来の飯の種となるコア部品の確立を目指し、「軽量化・電動化・生産技術の進化」をキーワードに自動車領域に限定しない新商品・新事業の開発に挑戦。中長期後半における収益貢献を目指す。

## ③ デジタルを駆使しプロセスを変革させコア技術を進化



### ➤ 金型事業のビジネスモデル変革

創業以来の金型技術を磨き、デジタル技術と匠の技の融合でQ(品質)C(コスト)D(納期)向上により競争力強化を図るとともに、生産プロセスの進化やグループの連携強化等により生産負荷変動に対しスピーディでフレキシブルに対応できるボトム体質を構築する。

## ④次世代工場の構築と新しいモノづくりへのチャレンジ



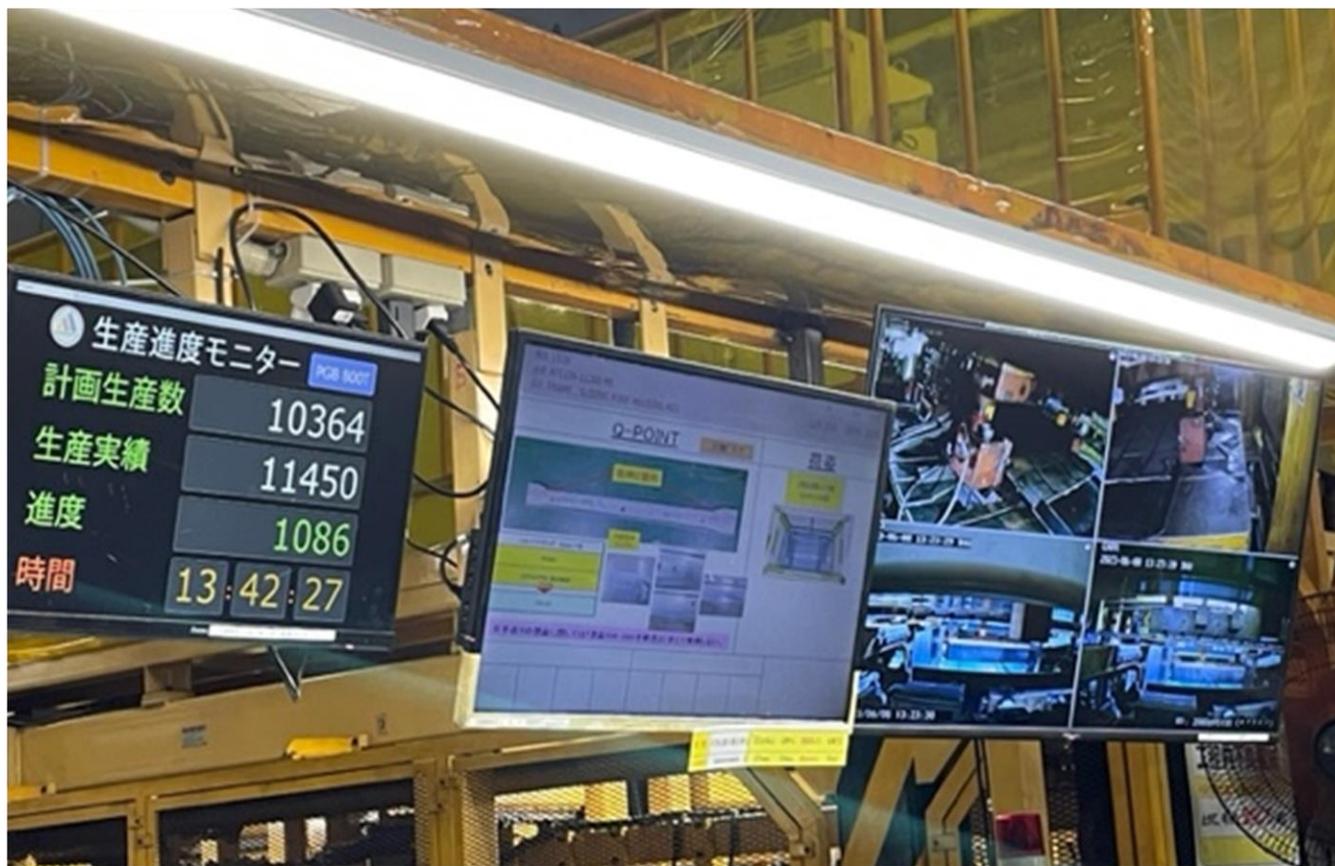
### ➤ 生産工程の自動化

生産工程となる素材投入から製品取り出しまでの自動化、品質保証工程の自動化等の推進により、省人化及び生産性向上を図り、設備効率最適化を推進する。

### ➤ スマートファクトリー化実現によるモノづくりの進化

AI/IOT等の導入により業務プロセスの見直しを図り、「止まらない工場」、「つながる工場」、「見える工場」を目指す。

## ⑤ DXの展開加速で経営構造の変革



### ➤ システム活用による業務プロセスの変革

「人は考える(付加価値創出)仕事を、管理(定型)業務はシステムへ」をスローガンに、DXの加速によりデータとデジタル技術を融合し生産～管理の全ての業務プロセスを変革させ、生産体質の強化や間接業務の効率化につなげる。

## ⑥ 持続的な成長に向けた事業ポートフォリオの変革



### ➤ アライアンス・M&A活用による成長加速

事業・製品・販路・技術等を軸に外部資源の有効活用(アライアンスやM&A)を図り、スピーディな企業成長を図る。

### ➤ 事業の選択と集中

伸長事業・不採算事業を見極め、成長事業に人・モノ・カネ等の経営資源を集中させるほか、新たな成長市場への進出を含めたグループ全体の事業リスクを視野に入れた経営を推進する。

## ⑦サステナビリティ経営による企業価値の向上

E/S/G	重要課題 (マテリアリティ)	KPI	関連するSDGs
E	CO2排出量の削減	CO2排出量削減率	7 再生可能エネルギー、13 気候変動
E	廃棄物の削減 資源の有効活用	廃棄物排出量の削減率 仕損費比率の削減率	12 持続可能な消費と生産、13 気候変動
S	当社技術を活用した 技術革新	電動化関係部品売上拡大	9 産業、中小企業とイノベーション
S	ダイバーシティ	女性管理職者数 外国人社員比率 障害者雇用率	5 ジェンダー平等、8 働きがいと経済成長
S	人材教育・育成	プロフェッショナル人材管理職 (専門職昇格者)	4 質の高い教育をみんなに
S	働き方改革	過重労働者率 ワークライフバランス推進・エクセレント企業認証	3 健全な生活とウェルビーイング、5 ジェンダー平等、8 働きがいと経済成長
S	労働安全衛生	健康経営優良法人認定 休業災害件数	3 健全な生活とウェルビーイング
S	地域経済への貢献	地域活性化事業の展開	11 持続可能な都市とコミュニティ
G	コーポレートガバナンスの強化	コーポレートガバナンス・コード遵守率	4 質の高い教育をみんなに、8 働きがいと経済成長、16 平和と公正



J-MAX本社 追加太陽光パネル



武漢丸順 太陽光パネル



タイ丸順 太陽光パネル



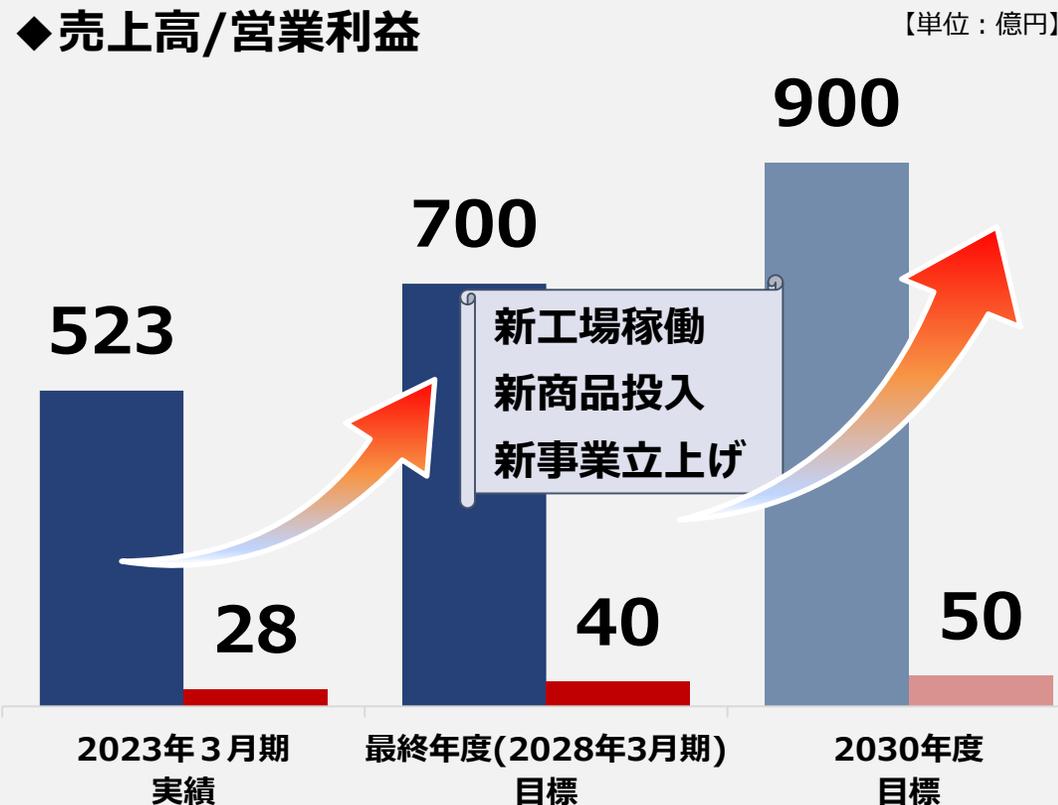
➤ **ESGの取組強化**  
持続可能な社会の実現と企業価値の向上に向け特定した重要課題(マテリアリティ)の取り組みを加速させ、KPIの達成を目指す。

➤ **最適な資本政策の実施**  
成長投資、M&A、研究開発、株主還元、有利子負債返済等のバランスを図りながら企業価値向上を図る。

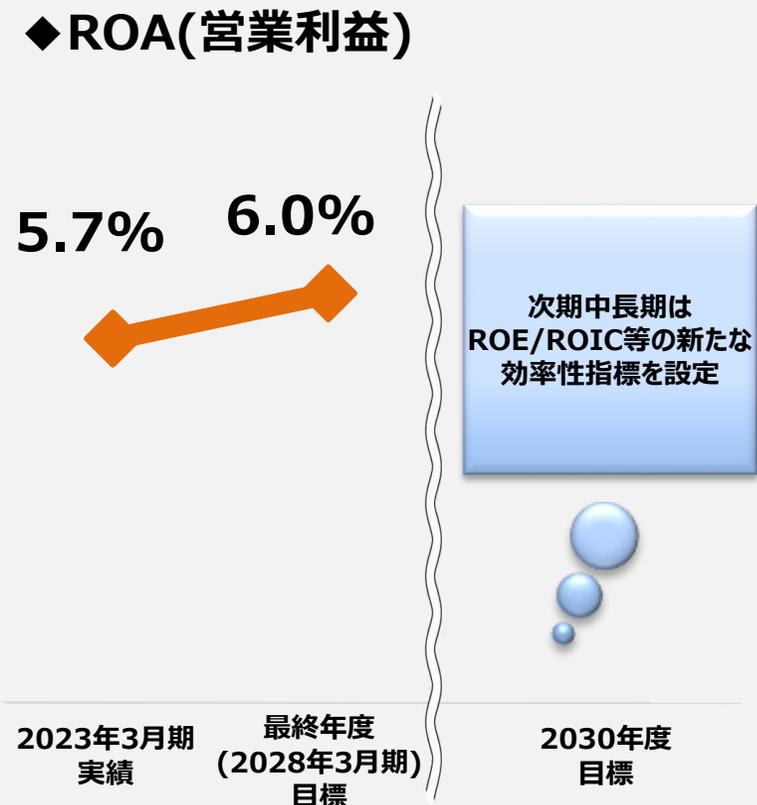
## ◆最終年度目標値



## ◆売上高/営業利益



## ◆ROA(営業利益)



# 中長期キャッシュフロー

## 【営業CF】

既存事業の強化と成長戦略の収益貢献により**営業キャッシュを創出**。  
将来の収益基盤となる新事業創出へ向けた**研究開発活動を推進**。

## 【投資CF】

事業規模の拡大を最優先に捉え、  
**収益拡大に向けた戦略的成長投資を実施**。

## 【投資CF】

### ◆5年間設備投資 400億円

専用投資 140億円

汎用投資 260億円

### ◆主な汎用投資

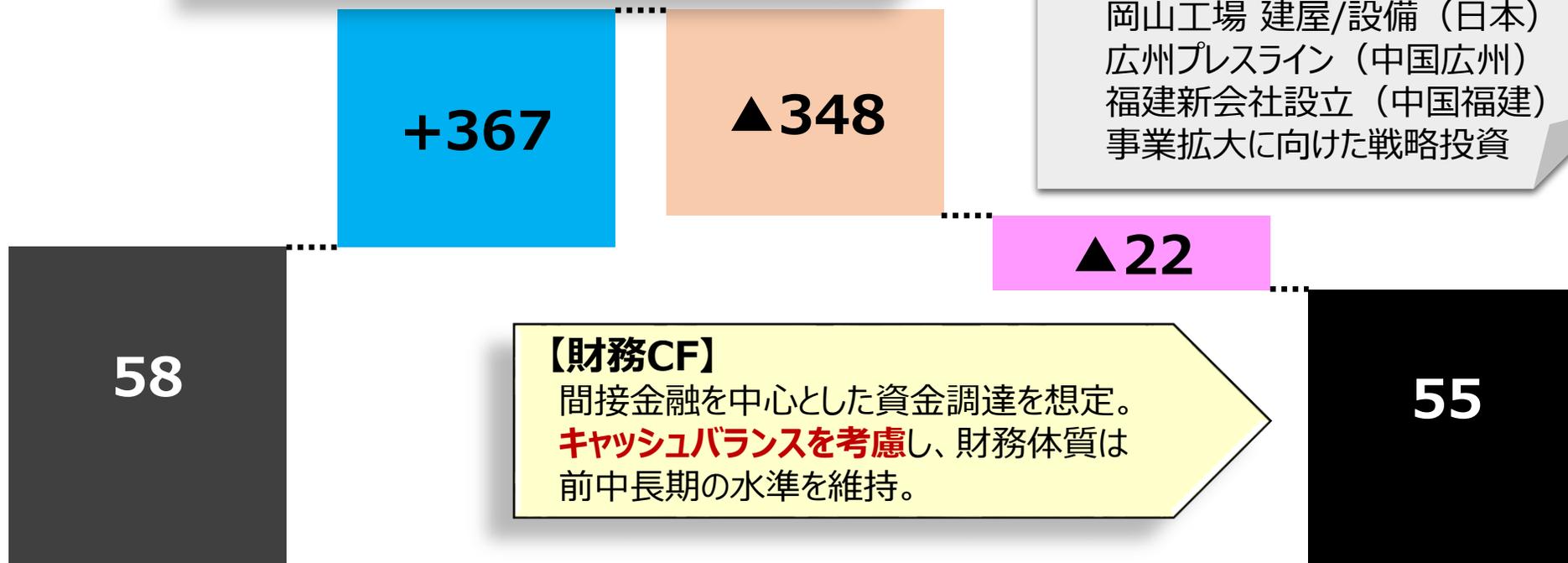
岡山工場 建屋/設備 (日本)

広州プレスライン (中国広州)

福建新会社設立 (中国福建)

事業拡大に向けた戦略投資

【単位：億円】



## 【財務CF】

間接金融を中心とした資金調達を想定。  
**キャッシュバランスを考慮**し、財務体質は  
前中長期の水準を維持。

2023/4  
期初  
現金残高

営業CF

投資CF

財務CF

2028/3  
期末  
現金残高

## 配当の考え方

### ■ 中長期1～2年目

経営環境変化への対応として、大型の成長戦略投資を実施。収益貢献/投資/資金調達・返済等グループ全体のキャッシュバランスを考慮し、**継続的に每期増配**することを基準とする。

### ■ 中長期3～5年目

成長戦略による収益拡大に合わせて**配当性向20%**を基準に株主還元を実施。

## 2023-2027 中長期

■ 期末配当  
■ 中間配当

### フェーズ1

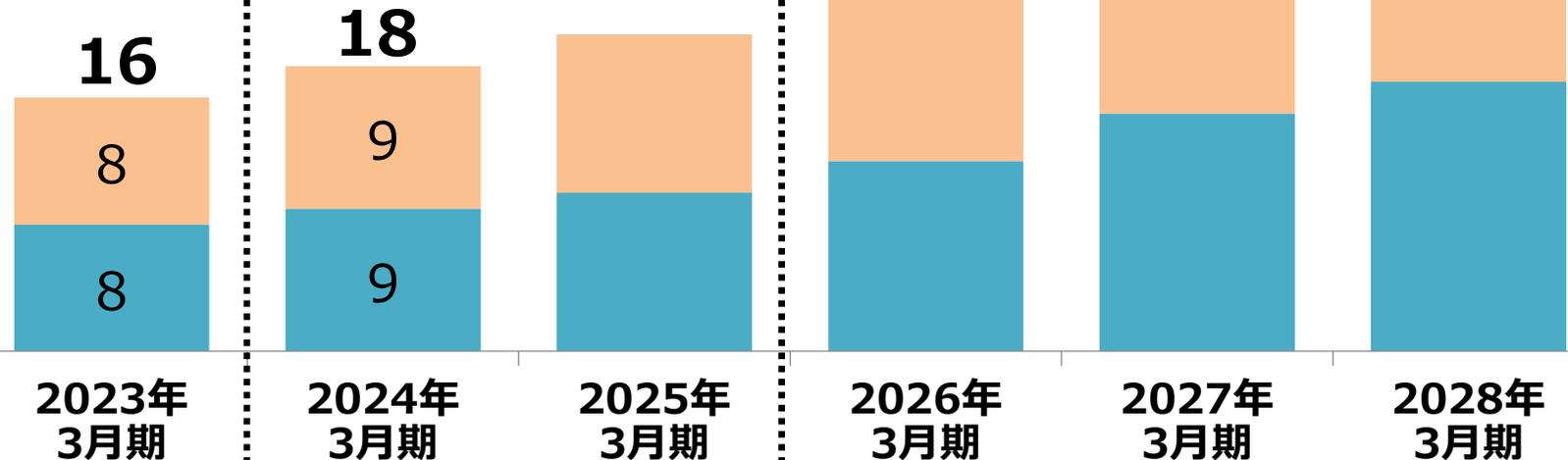
大型の戦略投資を実施  
半導体供給不足等の  
外部環境影響

每期増配

### フェーズ2

成長戦略による収益貢献、有利子負債返済、M&A、研究開発、株主還元等のバランスを考慮

配当性向20%を基準



# 第66期業績予想

## ➤ 2024年3月期業績及び配当予想

(単位：百万円)

	第65期実績 (2023年3月期)	第66期見通し・予想 (2024年3月期)		
		下限	上限	増減率
売上高	52,356	44,000	53,000	△16.0%～1.2%
営業利益	2,811	210	2,300	△92.5%～△18.2%
経常利益	2,712	△320	1,900	- ～△30.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,298	△730	1,100	- ～△15.3%
配当	中間 8円 (予定) 期末 8円 (予定) 通期 16円	(予想) 中間 9円 (予想) 期末 9円 (予想) 通期 18円		-

### 前提条件

- 中国拠点の減産が継続。生産動向不透明により、固定値での業績予想困難なため、レンジ形式で予想。  
 上限予想：主要客先の生産台数計画をベースに算出。5月以降中国拠点生産回復と想定。  
 下限予想：中国拠点の減産が、期末まで継続すると想定。
- 為替レート 元：18.00円、パーツ：3.50円

# 決議事項

第1号議案	剰余金の処分の件
第2号議案	取締役9名選任の件
第3号議案	補欠監査役1名選任の件
第4号議案	取締役に対する株式報酬制度の一部変更の件
第5号議案	剰余金処分の件 <株主提案>

## 剰余金の処分の件

### 期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類 **金銭**
- (2) 配当財産の割当てに関する事項およびその金額  
**当社普通株式 1株につき 金8円**  
**総額 94,855,288円**
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日  
**2023年6月26日**

## 取締役9名選任の件

候補者 番号	候補者氏名	現在の当社における地位・担当	取締役会 出席状況
1	さいとう ひろし 齊藤 浩	代表取締役社長執行役員	再任 16/16回(100%)
2	あおやま ひでみ 青山 秀美	取締役常務執行役員 管理本部長	再任 16/16回(100%)
3	いのくま あつとし 猪熊 篤俊	取締役常務執行役員 生産本部長	再任 16/16回(100%)
4	まつい つねお 松井 恒夫	上席執行役員 企画本部長	新任
5	やまざき えいじ 山崎 英次	取締役上席執行役員 開発・営業本部長	再任 16/16回(100%)
6	つゆき よしのり 露木 好則	取締役	再任 14/16回(87.5%)
7	たけうち はるひこ 竹内 治彦	取締役	再任 社外 独立 16/16回(100%)
8	やなぎさわ たみのり 柳澤 民紀	取締役	再任 社外 独立 16/16回(100%)
9	おおくら むつみ 大倉 睦美	取締役	再任 社外 独立 13/16回(81.3%)

## 補欠監査役1名選任の件

候補者氏名	現在の地位	
おばら やす あき 小 原 靖 明	N T Sホールディングス株式会社社外監査役 株式会社A G Sコンサルティング顧問 株式会社ピーエスシー監査役	社外 独立

## 取締役に対する株式報酬制度の一部変更の件

本議案は、2020年6月26日開催の第62回定時株主総会においてご承認いただきました、当社取締役における信託を用いた株式報酬制度につきまして、新たに業績目標の達成度との連動要素を追加するものであり、取締役に対してより一層の業績目標の達成と企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えることといたします。

変更後の本制度による報酬枠は、取締役の報酬の限度額（年額312百万円）とは別枠とし、本定時株主総会終結日から2025年6月の定時株主総会終結日までの2年間の間に在任する取締役に対して支給するものであります。

【業績指標】 : 連結売上高営業利益率  
前期比連結営業利益成長率  
連結フリーキャッシュフロー  
定性評価

## 剰余金処分の件

### 期末配当に関する事項

配当財産の種類 金銭 配当金は36円とする

# 質疑応答

議長の指名後に出席票番号をお伝えいただき  
要点を簡潔にまとめて、ご質問ください。

ご質問については、一回につき1問までとさせて  
いただきますようお願い申し上げます。

# 決議事項の採決

第1号議案	剰余金の処分の件
第5号議案	剰余金処分の件 <株主提案>
第2号議案	取締役9名選任の件
第3号議案	補欠監査役1名選任の件
第4号議案	取締役に対する株式報酬制度の一部変更の件

# 第1号議案

剰余金の処分の件

# 第5号議案 <株主提案>

## 剰余金の処分の件

## 第2号議案

取締役9名選任の件

## 第3号議案

補欠監査役1名選任の件

## 第4号議案

取締役に対する株式報酬制度の  
一部変更の件

本日の総会の目的事項はすべて終了いたしましたので、本総会は閉会といたします。

# 新任・退任役員のご挨拶

本日は誠にありがとうございました。

**技術で夢を**

***—Make our dreams by technology—***